



8月25日 2学期始業式～夏休みの思い出を胸に～

連日酷暑が続いた夏季休業が終わり、2学期がスタートしました。4つの「ない」(死なない・焼かない・盗らない・笑われない)を守り、いい思い出ができたことでしょう。本校の皆さんが、様々な場面で活躍してくれました。その中からいくつかを紹介します。



部活動	戦績
野球	<県大会> 1回戦
ソフトボール	<県大会> 第2位 <中国大会> ベスト8
陸上競技(男子)	<県大会> 110mH: 第1位 円盤投: 第2位 3年 100m・4×100mR: 第8位 <中国大会> 中止 <全国大会> 110mH: TR第1位
陸上競技(女子)	<県大会> 四種競技: 第5位 100mH: 第6位
ソフトテニス(男子)	<県大会> 個人: 3回戦
バドミントン(男子)	<県大会> 団体: 第1位 シングルス: 第2位 ダブルス: 第1・3位、ベスト8 <中国大会> 団体: 1回戦 シングルス・ダブルス: 1回戦
バドミントン(女子)	<県大会> 団体: 第3位
バスケットボール(男子)	<県大会> 2回戦
卓球(男子)	<県大会> 団体: 1回戦 個人: 第1位 <中国大会> 個人: 第3位 <全国大会> 個人: 2回戦
卓球(女子)	<県大会> 団体: 2回戦
柔道(男子)	<県大会> 団体: 1回戦 個人: 90kg 第3位
柔道(女子)	<県大会> 団体: 1回戦 個人: 40・52kg 第3位
相撲	<県大会> 団体: 第3位
水泳	<県大会> 50m自由1年女子: 第7位
吹奏楽	岡山県吹奏楽コンクール予選 A部門: 金賞 B部門: 優秀賞
技術	WRO Japan 2025 中国地区予選会 ROBO MISSION (ミドル競技) ジュニア部門 第1・2・3位

☆ 愛鳥ポスターコンクール 日本鳥類保護連盟岡山県支部長賞(1)、岡山県環境文化部長賞(2)

☆ 県下小中学校硬筆習字展覧会 岡山県習字教育会賞

☆ 倉敷市中学生弁論大会 『私たちの生きる「言葉」の世界』 銅賞

あなたの言葉は大丈夫？読んでみよう！

私たちの生きる「言葉」の世界

「A君があなたの悪口を言っていたからそんなこと言わないでよって怒っておいたよ。」と、友達に言われたことがあります。皆さんは、もし同じことを言われた場合、どう思いますか。「私はA君にそんなことを言われているのだ…。」と悲しくなりますか。それとも「友達は私をかばってくれたのだ。」と嬉しく思いますか。友達は私を思っていることだったのでしょうか。けれど、私はそのどちらでもなく、「なぜ、そのことを私に話したのだろう。」という疑問が一番に頭に思い浮かびました。私をかばってくれたことは確かに嬉しいことではあります。私をかばってくれたという言葉があるように、私はこのことを聞かなければ、A君に対し、良くない感情を抱くことも、私自身が傷つくこともなかったのではないかと思っただけです。この経験は、誰かにとっては善意でも、誰かにとってはそうではないことがあり、いつも当たり前のように使っている「言葉」について改めて考えるきっかけになりました。

私の経験は言葉の受け取り方の違いですが、言う側の思いや意識の違いでも、同じことが言えると思います。近頃では「うざい」、「きもい」という言葉も、深い意味もなく会話の流れで口に出している姿もよく見かけますが、その一言で、心に傷を負ってしまう人もいます。相手が悪意を持ち、言ってきた言葉であれば反論することも相手をも憎むこともできません。けれど、深く考えずに放った言葉に対し、不快な思いをしたことを伝えると、「冗談が通じないおもしろくないやつ」という人もいます。自分だけの狭い価値観だけで言葉を口にし、それが行き過ぎると言葉は凶器にもなりかねません。そして「言葉」というものは、一度口にする相手の心の中から消すこともできません。だからこそ、言葉の本当

の意味を考える必要があるのではないのでしょうか。「言葉」とは、本来、人々が感情や意図、考えを伝えあうためのものであり、互いに理解しあうために欠かせないコミュニケーションの手段の一つです。私達はこれから、高校・大学・社会へと、それぞれがどんどん広い世界の中で生きていきます。その広い世界の中ではコミュニケーションをとるということは欠かせません。その時に自分の発した言葉が相手を傷つけるものにならないように、今以上に、言葉が持つ意味や影響力、そして伝える側も受け取る側もその言葉の背景にある経験や感情を理解しようとする姿勢が大切だと考えます。そして、「言葉」は、相手にとっていい意味でも悪い意味でも大きな影響を与え、感情を揺さぶることもあるのだということを考えていかなければならないのだと思います。

「言葉」について考え、自分の経験を振り返ってみると、私は友達の善意を「知らなければよかった。」と自分本位な先入観だけで捉えてしまい、伝える側の気持ちを理解しようとしていなかったのだということに気づき、はっとしました。

このようにちょっとした理解のズレも、その時にちゃんと「言葉」にすることが、本来の「言葉の意味」につながるのだと思います。

今、あなたが放ったその言葉は、誰かを傷つけるものになっていませんか。

今、あなたが耳にしたその言葉を、自分本位に受け取っていませんか。